



↑大会に向け練習に励む津市消防団美杉方面団の女性分団「めぐみ分団」の選手たち

# 津消防タイムズ

第52号

発行 津市消防本部  
〒514-1101  
津市久居明神町  
2276 番地

編集 消防総務課  
企画調整担当  
TEL 059-254-0353  
FAX 059-256-7755

火災の問い合わせ  
☎059-224-1881

三重県救急医療情報センター  
コールセンター  
☎059-256-1199



↑9/17に実施された県庁での壮行会

**美杉「めぐみ分団」  
全国女性消防操法大会に出場  
(美杉分署)**

来る十月十七日に神奈川県横浜市消防訓練センターにおいて開催される、第二十一回全国女性消防操法大会に、三重県代表として津市消防団美杉方面団の女性分団「めぐみ分団」が出場します。



↑ホース延長!!

大会では、全国各地から四十七チームが出場し、五人一組で軽可搬ポンプを操作し、放水により標的の二個のビーチボールを落下させ、速さと確実性、安全性を競います。

審査は各操作員の行動審査得点に計時審査(基準タイム五十五秒)、総合審査得点を加算する方式と非常に厳しい審査で順位が決まります。

分団員は美杉方面団や家庭・職場の皆さんの理解のもと、昨年の夏ごろから筋力トレーニング等の基礎体力づくり、今年四月からは毎週二回の基礎練習、八月からは毎週三回以上、一連の動作の反復練習を重ねました。

大会まで残り一カ月、訓練も大詰めとなり、選手たちは悔いを残さないよう今日も訓練に励んでいます。(田村 和也)

**危険物安全週間に伴う****想定訓練の実施****(中消防署)**

毎年六月の第二週は「危険物安全週間」に定められており、ガソリンや軽油に代表される「危険物」の取り扱いに対する意識の高揚及び啓発が全国的に推進されています。

中消防署では、危険物を貯蔵する工場で爆発が起こり、建物内に従業員が取り残されているとの想定で、消防訓練を実施しました。



↑訓練を行う署員

取り残された要救助者を救助する特別救助隊と、それをフォローしながら消火活動を行う消防隊、そして、各隊の統制を図る指揮隊とで繰り返し訓練を行って互いの連携を確認

し、実際の現場での安全確実な消防活動と、署員の士気高揚を図りました。  
(茨木 和隆)

**第四十二回消防救助技術****東海地区指導会に出場****(西分署)**

七月二十四日、鈴鹿市石薬師町の三重県消防学校で、第四十二回消防救助技術東海地区指導会が開催され、西分署チームは、障害突破訓練に出場しました。

この訓練は、はしご登はんやロープ渡過等、五カ所の障害を乗り越え、ゴールまでの安全確実性、迅速性を評価する種目で、約四ヶ月間、出場者六人は全国大会に出場を目指し日々精進してきました。

大会当日は、大雨の中での競技となりましたが、減点は無く、二十三チーム中十位(三重県内一位)でした。

訓練で培った不屈の体力・精神力を災害現場で活かせるようさらに努力を続けていきます。

**(山田 貴大)**

↑ゴールに向かって走り込む西分署チーム

**安濃分署にひまわりが咲く****(安濃分署)**

昨年、社会見学に訪れた小学生から「市民のためにがんばってください」と、ひまわりの種を頂きました。

その種を庁舎の花壇に植えたところ、七月の中旬に花壇いっぱいひまわりが咲きました。

安濃分署は田園の真ん中にあり、見晴らしは良いのですが、少し淋しい感じを受けることがありました。大きく黄色い



↑種をくり抜いて「火の用心」

ひまわりの花が咲いたことで、とても夏らしく明るい雰囲気になり、安濃地域の景観にも一役かかっています。

職員からも「小学生から貰ったひまわりの種が、元気に花を咲かせているのを見ると、今年の夏の暑さに負けることなく職務を全うすることができると言うコメントがあり夏バテ無く猛暑を乗り切れました。

**(井上 拓也)**

**水難用資器材取扱訓練****を実施****(北消防署)**

七月十八日、十九日の両日、白塚漁港において、北消防署、河芸分署、芸濃分署合同による水難用資器材取扱訓練を行いました。

今回の訓練は、夏休みを前に水難事故対応における迅速的確な初動体制作りを図ったもので、ゴムボートの搬送、船外機の取り付け等の水難救助用資器材の取り扱い訓練を重点的に実施し、初期の目的を達するとともに隊員相互の連携強化を図ることができました。

(田中 淳一)



↑ゴムボートに船外機を取り付ける職員

**デイサービス施設で****地震・津波による****避難訓練を実施****(河芸分署)**

七月二十日、河芸町一色のハーフトヒルかわげR23で地震・津波を想定した避難訓練が行われました。



↑避難のため送迎車両に乗車

施設職員は、施設利用者(約六十人)を手際よく送迎用車両に乗車させ、高台にある姉妹施設の介護老人福祉施設ハーフトヒルかわげへの避難に要した時間を計測しました。その後、河芸分署員による一

津波避難対策」の講話と水消火器による初期消火訓練を実施するとともに、避難経路、非常食の管理状況及び防災資器材等の確認を行いました。

(西谷 昂)

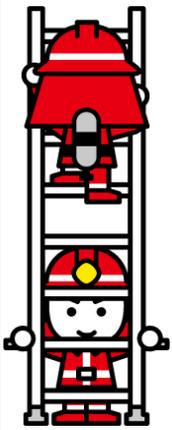
**中国人研修生が****防火指導を受講****(芸濃分署)**

七月四日、芸濃分署において中国人研修生十二人を対象に、防火指導会が行われました。

防火指導会では、中国語に翻訳された防災講話の資料を視聴し、火災予防、震災の対処等について学びました。また、初期消火の実践訓練として、水消火器を使つての初期消火方法を体験しました。

消防署では、この他にも地域自治体、学校、事業所等にも防災指導を行っており、地域の防災意識の向上を目指しています。

(岸江大輔)

**津市消防団久居方面団が****操法大会を実施****(久居消防署)**

七月十四日、津市久居体育館駐車場において、第十九回津市消防団久居方面団操法大会が開催され、久居地域の十の分団が小型ポンプ操法を競い合いました。

大会途中には激しい降雨もありましたが、この日のために厳しい訓練に励んできた選手は雨をものともせず、ずぶぬれになりながらも訓練の成果を遺憾なく発揮しました。



↑訓練用の水消火器で取り扱いを学ぶ



↑ホースを延長する久居方面団員

各分団は、五月下旬頃から操法訓練に取り組み、短い期間ではありましたが、ホースの延長方法やポンプの操作方法など「いかに早く、安全、確実に標的を落とすことができるか」について、団員同士で夜遅くまで熱く盛り上がりつつあります。

八年ぶりに開催されることとなったこの操法大会は、団員はもとより、地元自治会の応援や団員家族のサポートもあり、これからの消防団活動が益々発展するきっかけとなり、久居地域の安全安心につながると思います。

(前川 寿宏)

## 高茶屋地区

### 安全フェスティバルに参加

(南分署)

五月十九日、三重中央自動車学校で「高茶屋地区安全フェスティバル」が開催されました。例年、安全・防災をテーマに実施されており、消防は初期消火・放水・煙体験コーナーやミニ消防車・救急車の展示試乗コーナー、津市消防団津方面団のデージー分団による紙芝居・輪投げコーナー、久居消防署高度救助隊による、はしご車からの降下デモンストレーションも実施しました。



↑イベントを楽しむ来場者

約千人もの地域住民の方が来場していただき、子供たちが防火衣を着装し、真剣な眼差しで放水体験している姿や、楽しそうにミニ消防車と記念撮影している風景も見られました。

(池村 光弘)

### 自主防災会訓練を実施

(美里分署)

七月二十八日、美里町五百野地区において、自主防災会、津市消防団美里方面団第二分団あわせて約六十人が参加して、地震、風水害に備えた自主防災訓練が行われました。



↑瓦礫からの救出訓練

訓練は、水消火器による初期消火訓練と災害弱者、逃げ遅れた人の救出、救護訓練が実施されました。

地区住民の皆さんは、本番さながらの緊張感を持って熱心に訓練に取り組み、災害時における消防団、関係機関および住民の連携の必要性を再確認されるとともに、防災に対する意識の向上につながったものと思います。

(井川 幸則)

### ふれあいのかおり2013

#### 渚のフェスティバル (香良洲分遣所)

五月二十六日、香良洲町高砂の香良洲公園内で「ふれあいのかおり2013 渚のフェスティバル」が開催されました。

香良洲分遣所では、津市消防団香良洲方面団の女性消防団員とともに、大声大会とわなげ、子供防火服を着用してのミニ消防車試乗体験を実施したところ、たくさん親子連れが楽しそうに体験されていました。

今後とも、子供たちの防火意

識を高めるため、このようなイベントを通じた防火啓発活動にも力を注いでいきたいと思っています。  
(高岡 正弘)



↑電動ミニ消防車で走行する親子

## 津市消防団白山方面団

### 夏期実践訓練を実施 (白山消防署)

八月十八日、白山町八対野の日生学園第二高等学校ラグビー場において、平成二十五年度津市消防団白山方面団夏期実践訓練が実施されました。

今回の訓練は、各分団の協力・連携の強化を目的に行われ、白山方面団長以下百八十人が参加し、火点から約八〇〇m先の砂防ダムから吸水した消



↑可搬ポンプを車両から降ろす団員

防ポンプ車隊と、約五〇〇m先の貯水池から吸水した可搬ポンプ隊とに分かれ、遠距離中継送水訓練に臨みました。

炎天下の中、方面団長の指揮のもと各分団員は滝のように流れる汗をかきながら、実際の消火活動さながらに、高低差のある経路で機敏にホース延長を行いました。

また火点側では、放水開始と同時に三人の要救助者を発見したという想定で、救護隊による応急救置訓練が行われました。  
(森川 恵一)

## 津市一志地域

### 総合水防訓練を実施 (一志分署)

六月二日、一志町高野の市立高岡幼稚園・高野保育園園庭をメイン会場に平成二十五年度津市一志地域総合水防訓練が実施されました。

訓練は、土砂災害・全国統一防災訓練を兼ねたもので、集中豪雨により三重県下に大雨洪水警報が発令され、津市中西部において三重県より土砂災害警戒情報が発表されたとの想定で行われました。



↑水防工法を実施する参加者

訓練には津市消防団一志方面団、自主防災協議会一志支部の自主防災会、三重県県土整備部、津市危機管理部、津市一志総合支所、津南警察署などから約二百人が参加し、情報伝達・避難・水防工法訓練を実施しました。  
(山口 省治)

### 津市災害図上訓練実施 (消防総務課)

八月二十二日、津市本庁舎において災害対策本部図上訓練を実施しました。

同日午前六時〇〇分に南海トラフを震源とする巨大地震が発生し、津市内で震度7を観測したという想定のもと、実際の被災地のような緊迫感の中、職員は連携を取りながら、それぞれの任務を遂行しました。

訓練に参加した職員から、「これまでの経験から手順は理解しているつもりであったが、本訓練を通じて情報共有の難しさを痛感した。こうした課題を克服し、有事に備えたい」との声が聞かれました。



今後、津市消防では、訓練で発生した問題点を把握・改善することで災害対策本部の更なる機能強化に努めます。

(小林 隆幸)



↑被害状況を記録する参加職員



多数の奏功事例があります。

住宅用火災警報器によって、火災の発生を初期状態で知ることができたため、消火器等による初期消火に成功し大事に至らなかったもの。また、鍋のかけ忘れで警報器が鳴動し、鍋の空焚きに気づき火災に至らなかったものなどを含め、数多くの奏功事例が報告されています。

### 住宅用火災警報器の

### 維持管理できていますか

(消防安全課)

平成二十年六月から設置が義務化された住宅用火災警報器は、年々その設置率が上昇し、津市では本年六月時点で約八割の住宅が設置しています。この住宅用火災警報器によって、火災の発生を初期状態で発見することができたので大事に至らなかったという奏功事例が数多く報告されています。



点検ボタンなどで、定期的に動作確認をしてください

住宅用火災警報器の維持管理は、日頃の点検はもとより、長く使用していると電池の交換や本体の交換が必要となってきました。「ピッピッピ」と一定の間隔で鳴る場合は、機器の異常が考えられますので、取扱説明書等で確認してください。また、住宅用火災警報器には、電池交換が必要なものがあります。機種や動作環境により電池寿命は異なりますので、定期的に点検ボタンを押す、又はひもを引いて作動確認をしましょう。もしもの時に正常に作動するように、日頃の維持管理が大切です。

(松本 栄司)

### がんばれ学生消防団員!

(消防団統括室)

六月五日、三重短期大学生十二人で構成される『学生機能別団員』が発足しました。防火・防災に寄与したいとの熱い思いで志願していただいた若い学生団員の入団によって、津市消防団に新風が吹き込むことと思います。

学生機能別団員の主な活動は啓発活動や救急指導等を予定していますが、大規模災害時には後方支援部隊として避難所や救護所での活動を期待しています。

(山口 敬正)



↑夏期訓練に参加する学生機能別団員

## 平成二十五年上半期の

## 火災・救急・救助概況

【火災】上半期に市内で発生した火災は八十九件で、昨年同期と比較すると三十三件増加しました。火災種別で見ると、建物火災は十件増加、その他の火災は二十五件増加となっています。

出火原因では「放火の疑い」による火災が多く発生しており、日頃から放火されにくい環境づくりに気をつけましょう。

区分	平成25年上半期	平成24年上半期	増減
火災件数合計(件)	89	56	33
火災種別(件)	建物火災	26	10
	うち住宅火災	19	6
	林野火災	5	3
	車両火災	5	▲5
	船舶火災	0	0
	その他の火災	43	25
死者(人)	4	1	3
負傷者(人)	4	4	0

▲は減を示す

区分	平成25年上半期	平成24年上半期	増減	
出動件数	6,822	6,506	316	
搬送件数	6,138	5,851	287	
搬送人員(人)	6,215	5,918	297	
主な事故種別(出動件数)	急病	4,223	4,000	223
	一般負傷	1,082	1,023	59
	交通事故	647	616	31

【救急】上半期に市内で発生した救急出動件数は六千八百二十二件で、急病が四千二百二十三件と全体の約六十二%でした。

また、救急出動全体の約五十三%が軽症患者でした。

軽いけがや病気(擦り傷、歯痛、風邪など)の場合などは、自家用車やタクシーなどで掛かり付けの医療機関で受診してください。

救急車の適正利用に御協力をお願いします。

【救助】平成二十五年上半期に市内で発生した救助出動件数は六十一件で、交通事故が二十九件と全体の約四十八%でした。出動件数六十一件のうち現場で活動した件数は、三十三件で、三十三人を救助しました。活動件数に含まれていない二十八件については、救助隊が到着するまでに付近住民により救出されたものなどです。

区分	平成25年上半期	平成24年上半期	増減	
出動件数	61	46	15	
活動件数	33	33	0	
救助人員(人)	33	38	▲5	
主な事故種別(出動件数)	交通事故	29	24	5
	水難事故	6	6	0
	建物等による事故	8	3	5
	火災	6	0	6

▲は減を示す

## ★ 主な行事予定 ★

- ◆ 一月九日(土) 消防・防災フェスティバル (津リージョンプラザ・お城ホールほか)
- ◆ 一月二十四日(日) 平成二十五年津市総合防災訓練 (白塚漁港周辺)
- ◆ 一月十二日(日) 津市消防出初式 (津リージョンプラザ・お城ホールほか)

## 編集後記

二〇二〇年のオリンピック開催地が東京に決まりましたね。次いで、レスリングが東京五輪と、その次の二〇二四年の五輪の正式競技に決まり、津市出身の吉田沙保里選手も喜びを露わにし「東京五輪をめざす」とコメントしていました。

国内の最高気温を更新した記録的な今年の猛暑が過ぎて秋の気配が感じられるようになったところに、このオリンピック関連の熱いニュースで再び日本中が熱くなっています。

津市消防も組織改編や高度救助隊の発足、消防団事務の移管などがあり、大きく変化した熱い年となりました。

私にとっても人事異動で大きく変化した熱い年となりましたが、オリンピックを目指す選手たちのように、大きな目標を持って、熱く進んで行きたいものですね。

(宮田 憲一)

# 消防・防災フェスティバル

平成25年 **11月9日**(土)

**入場無料**



シロモくんも来るよ!

津リージョンプラザお城ホール

午前10時00分～午前11時30分

お城西公園

午前10時30分～午後2時00分

○津リージョンプラザお城ホール (定員600名)

午前10時～午前11時30分 (9時30分開場)

- ・津市消防音楽隊による演奏  
「あまちゃんのテーマ」「ディズニーメドレー」  
「時代劇メドレー」など
- ・幼年消防隊による演技
- ・女性消防団による防火寸劇



○防災ヘリによる救出訓練 (午後1時～)

(雨天、緊急出動時は中止することがあります。)

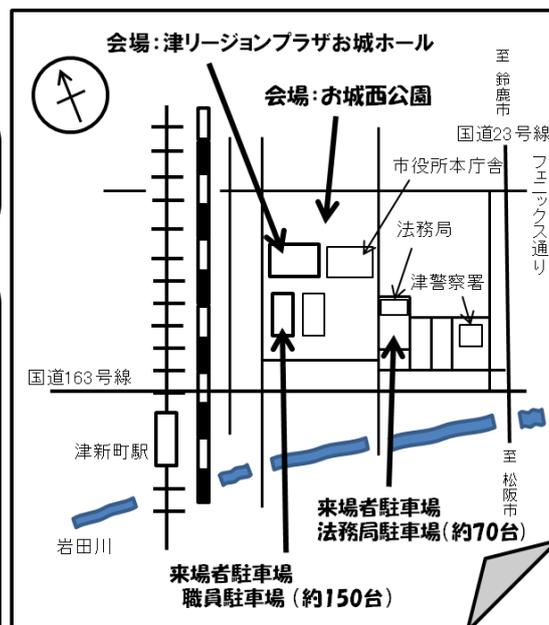


○お城西公園 午前10時30分～午後2時

- ・運転席乗車体験 (水槽付き消防ポンプ車・救急車)
- ・消防車両展示  
(救助工作車・はしご車・指揮車・消防団多機能車・支援車)
- ・電動ミニ消防車・救急車
- ・防火服着装体験
- ・初期消火体験
- ・心肺蘇生法体験
- ・ぬりえ
- ・煙体験
- ・119番通報体験
- ・地震体験
- ・防災啓発



※天候などにより、中止または内容を変更する場合があります。



主催: 津市・津市消防本部

協力: 津市消防団

後援: 津市防火協会

お問い合わせ

津市消防本部 消防総務課 企画調整担当

TEL: 059-254-0353